

指定養成施設「様式」の記入例

’（記入例記載様式）

指定養成施設計画書

ログブックの記入・チェック注意点

入所審査成績報告書 様式14-1

入所審査判定要領・成績表の一表（省略） 様式14-2

入所審査判定要領・成績表の一裏（省略） 様式14-2

入所申込書

技能証明申請書 第19号の2様式(HBの鉛筆で記入)

学科教育実施記録表 様式9-1-1

学科教育修了試験成績表 様式9-1-2

実技教育実施記録表 様式9-2

実技教官引継表（ウィンチ曳航） 様式9-6

実技教官引継ぎ表-裏面（コピー挿入） 様式9-8

技能審査成績報告書 様式9-4

（記入例省略用様式）

コース前担当教官確認表（事務局作成記入例省略） 様式11-6

教育施設、訓練機材点検報告書（事務局作成記入例省略） 様式11-10

訓練開始点検表（省略）

技能審査結果の評価に関する報告書（技能審査員作成記入例省略） 様式11-9

指定養成施設計画書(案)記入例

公益財団法人日本学生航空連盟

訓練所長 栗山 修

担当者 深田 浩

学生班長 学連 太郎

1. 目的 自家用操縦士(滑空機)上級技能証明取得のため期別第〇〇〇期の指定養成コースを開催する。

2. 場所 妻沼滑空場 住所:埼玉県熊谷市葛和田 1975 連絡先:(TEL)048-588-0697

3. 指定養成施設管理者、教官並びに技能審査員

管理者 谷川 史郎

学科首席教官 深田 浩

実技首席教官 太田 洋一

担当学科教官 田中 昇、江口 正、田村 花子

担当実技教官 田中 昇、江口 正、田村 花子

技能審査員 大山 光男、八尾 正孝

4. 訓練生

氏名	電話番号	大学名	実技担当教官
学連 太郎	携帯電話 メールアドレス	新橋大学2年	田中 昇、江口 正、 田村 花子
〇〇 〇〇	同上	新橋大学3年	〃

5. 期間 2021年2月10日(水)~2021年4月6日(火)

(場所:学科-公益財団法人日本学生航空連盟事務所、妻沼滑空場 実技-妻沼滑空場)

入所審査日:2021年2月20日(土) ※表は日付順に記入のこと

日程	内 容	担当教官
3月10日(水)	学科(1-1,1-2,2-1) 2時間30分 15時~	田中 昇
3月11日(木)	学科(2-2,2-3,2-4,2-5) 4時間 13時~	江口 正
3月12日(金)	学科(3,4) 2時間30分 15時~	田村 花子
3月15日(月)	学科(5) 1時間 17時~	田村 花子
3月16日(火)	実技(1-1,1-2,1-3,1-4)	田中 昇
3月17日(水)	実技(1-5,1-6)	江口 正
3月18日(木)	実技(1-7,1-8)	田村花子
3月19日(金)	実技(2-1, 2-2,3-1, 3-2)	田村花子
3月20日(土)	実技(3-3)	田村花子
3月21日(日)	実技予備日	
3月22日(月)	技能審査日	技能審査員
2月23日(火)	技能審査予備日	

使用予定諸機材

(1) 機 体:アレキサンダー・シュライハー式 ASK21 型

JA2520(耐空証明期限:2022年〇月〇日、JA05KH(耐空証明期限:2022年〇月〇日)

JA2379(耐空証明期限:2022年〇月〇日)

ウインチ:法政 2連ウインチ、学連 4連ウインチ 1号・2号

(2) リトリブ:法政 2連リトリブ、学連 4連リトリブ 1号・2号・3号

(3) 無線機:新橋大学/日本学生航空連盟

機材車:新橋大学/日本学生航空連盟

その他機材:新橋大学/日本学生航空連盟

7. 予 算

教官謝礼・着陸料・宿泊料・食費・その他経費

以上

入所審査成績報告書

(上級滑空機)

総合判定

合格

① 受 審 者 調 書 (受審者記入欄)			
ふりがな <u>がくれん たろう</u>		生年月日	
氏 名 <u>学連 太郎</u>		2001 年 4 月 / 日生	
受審する資格	審査の種類	既得の技能証明	
自家用操縦士	技能証明	_____No_____	
審査に使用する滑空機			操縦練習許可書番号
等 級	型 式	国籍・登録記号	No. <u>東事総第100号</u>
上級滑空機	<u>アレキサンダー</u> <u>シュライハー</u> 式 <u>ASK21</u> 型	J A <u>2520</u>	有 効 期 限 <u>2023 年 8 月 30 日</u>
現 住 所	<u>東京都港区新橋1-18-2</u>		郵便番号 <u>105-0004</u>
連 絡 先 (大学名)	<u>新橋大学</u>		電話番号 <u>03-6206-1235</u>
学科試験合格	<u>2022 年 12 月 8 日</u>		受験地 <u>東京</u>
飛 行 経 歴 (入所審査を受ける前までの経歴を記入)			
上級滑空機の総飛行時間および回数		<u>26</u> 時間 <u>33</u> 分 <u>141</u> 回	
受審する滑空機と同型式の滑空機の飛行時間、回数		<u>17</u> 時間 <u>51</u> 分 <u>100</u> 回	
滑空機・上級による単独飛行時間および回数		<u>8</u> 時間 <u>42</u> 分 <u>31</u> 回	
② 教 官 の 証 明 (指定養成教官記入欄)			
受審者 <u>学連太郎</u> は入所要件に係る飛行経歴および所定の技能を有していることを証明します。			
教官の有する技能証明の資格と番号 <u>自家用</u>		操 縦 士 No.	<u>3002</u>
<u>2023 年 2 月 20</u> 日		操縦教育証明No.	<u>217</u>
		教官署名	<u>田村 花子</u>
③ 審 査 の 実 施 (担当者記入欄)			
期日	年 月 日	場所	担当者
(特記事項)			

※総合判定は合格、年号は西暦表示とする

入所審査判定要領・成績表

氏名 学連太郎

書類審査

課 目	判 定 要 領	判定
航空経歴(入所審査前の経歴を記入)	ログブックにより必要経歴を確認	レ
操縦練習許可書	有効期限、単独飛行証明	レ
学科試験合格通知書	合格年月日の確認	レ

口述審査

課 目	判 定 要 領	判定
1 運航に必要な知識(AIMの内容の理解)		
1-1 有視界飛行方式 諸規則の適用	飛行空域によるVMC違いを理解しているか	レ
1-2 航空交通管制の概要、管制圏、管制区の航行	航行に必要な装備などの理解度	レ
1-3 飛行場標識など	R/Wマーキングなど	レ
1-4 捜索救難、フライトプラン	飛行計画の意味を理解	レ
1-5 安全対策(ヒューマンファクター等)	高高度の影響、薬物、G など理解しているか 人間の能力の限界に関する事項	レ
1-6 報告の義務	機長の義務の理解	レ
2 航空機事項		
2-1 諸元、運用限界	受審機の基本性能を理解しているか	レ
2-2 運航形態(重量、バンク角など)の変化による性能への影響	正しく理解しているか	レ
2-3 飛行高度、温度、風等による性能への影響	〃	レ
2-4 通常操作及び緊急操作の手順	〃	レ
3 飛行前作業		
3-1 使用航空機の耐空性の確認	必要書類、整備記録などの確認ができるか	レ
3-2 適切な重量重心の管理	確実に確認できるか	レ
3-3 航空情報、空域の理解とノータムチェックの方法	TCA、訓練空域等の確認、NOTAM が読めるか	レ
3-4 気象情報の解読、ウエザーミニマムの理解	情報を解読でき、飛行の可否が判断できるか	レ
3-5 滑空機取り扱い	日常点検、取り扱いができる知識経験があるか	レ

※判定は、レ点とする

実技審査

科 目	判 定 要 領	判定
1 離着陸		
1-1 発航準備	チェックリストによる確実な準備ができるか	レ
1-2 離陸(横風、強風含む)	安全な離陸 適正上昇角、曳航速度の管理	レ
1-3 場周経路の飛行	適切な高度、経路で飛行できること	レ
1-4 基本着陸	安定した指定地着陸(60メートル)	レ
1-5 横滑りからの着陸	スリップ中危険な姿勢にならないこと、 確実なリカバリー	レ
2 外部視認目標を利用した飛行を含む空中操作 (2科目以上を指定して実施する、未実施は-表示)		
2-1 低速飛行	円滑で釣り合いの取れた操作	レ
2-2 失速と回復操作	的確な回復操作、2次失速させない、 旋回中のバンク±10度	レ
2-3 急旋回	円滑で釣り合いの取れた操作 速度±18km/h、停止方向±10度 傾斜角の維持、	-
2-4 最良滑空速度による滑空	大気の状態による適正速度が設定できる 速度±9km/h	-
2-5 最小沈下速度による滑空	最小滑空速度 ±9km/h	-
2-6 地上目標を中心とした旋回	所定の経路の滑空 柔軟円滑な操作と注意力の配分	-
3 ソアリング (可能な時のみ実施、口述でよい)		
3-1 各種ソアリング	基礎的な知識があるか 他機警戒を含む安全対策ができるか	レ
4 異常時及び緊急時の操作 (口述で確認する)		
4-1 曳航索の追い越し、索切れ、離脱不能 曳航速度の超過・低下 曳航中のポーポイズイング	対応可能な知識・経験があるか	レ
4-2 諸系統又は装置の故障	異常時及び緊急時の判断及び操作	レ
4-2 場外着陸	地点の設定と必要な操作 目測及び速度	レ
4-3 背風着陸	背風着陸操作の説明	レ
5 総合能力		
5-1 計画性・判断力	安全に飛行でき、予期される危険を回避できる	レ
5-2 状況認識	状況を正しく認識し、落ち着いて判断できる	レ
5-3 規則の遵守	規定規則を遵守する能力があること	レ

※判定は、レ点とする

事務局受付 印
期別 期

指定航空従事者養成施設

入所申込書（記入例）

入所審査が終わり、この入所申込書を作成した日を記入します。

令和5年4月1日

日本学生航空連盟
指定養成施設管理者 殿

所属大学名 新橋 大学 3年

住民票に記載された住所を記入します。

氏名 学連太郎

経歴は、入所審査の飛行を含んだ飛行時間及び飛行回数を記入します。

連絡先住所 東京都港区新橋1-18-2

同 電話 03-6206-1235

私は、当養成施設に於いて自家用操縦士（滑空機・上級）の資格に係る養成コースに入所したく、入所審査成績報告書、入所審査判定要領・成績表、フライト・ログ（最近30回分のコピー）、学科試験結果通知書（コピー）および手数料を添えて申し込みます。

▽ 経歴（入所審査のフライトを含む、入所申込書提出以前の経歴を記入）

滑空機	上 級	動 力	課程の科目を練習した飛行回数	
総 飛行時間	26時間 43分	0時間 0分	ウインチ曳航回数	133回
〃 飛行回数	133回	0回	空中操作科目	31回
単独飛行時間	8時間42分	0時間 0分	緊急処置科目	7回
〃 飛行回数	31回	0回	失速及び回復	20回

ログ上で確認できる回数。

空中操作科目とは、指定養成施設内に行う科目で、①低速飛行、②最良滑空速度による滑空、③最小沈下速度による滑空、④地上目標を中心とした旋回、⑤急旋回及びソアリングのこと。

▽ 操縦練習許可書の番号、期限

東事総 第 100 号 有効期限 2023年 6月 1日 まで

▽上記の者は指定養成施設に入所し、当課程を期間内に修了する能力が有ると認めます。

指定養成施設登録教官 署名 田村 花子

（入所審査を行った教官は原則として技能審査に立ち会うこと）

訓練所長 署名 新橋 次郎

技能証明 技能証明限定変更 航空英語能力証明 実地試験申請書
計器飛行証明 操縦教育証明 運航管理者技能検定) 申請書

自家用操縦士(滑り上級)の資格について関係書類を添えて申請します。 [] の実地試験を申し込みます。

氏名 TAROU GAKUREN

名 漢字 学連 太郎 生年月日 M T S H 西暦 010401 明治 大正 昭和 平成 下2ケ 年 月 日生

郵便番号 1050004 電話番号 03-1234-6789 性別 男 女

現住所 東京都港区新橋 1-18-2

本籍 (漢字) 東京都港区築地 5-3-2

所属名又は勤務先 112 日本学生航空連盟 電話番号 03-6206-1235 国籍コード JPN 国名 日本

申請資格 A4 種類 G 等級 HCG 型式 [] 学科試験合格受験番号 A7822A4G0024

申請に係る既得技能証明番号 ① [] ② [] ③ [] ④ []

教育機関又は判定事業者名称 (漢字) 公益財団法人日本学生航空連盟 英語証明判定結果 レベル []

受験希望地 (漢字) [] 修了又は判定年月日 H 西暦 [] 平成 下2ケ 年 月 日

受験希望年月日 第1希望 H 西暦 [] 平成 下2ケ 年 月 日 ~ 第2希望 H 西暦 [] 平成 下2ケ 年 月 日

※この用紙はコンピュータで処理しますので、□からはみ出さないよう、ていねいにHB鉛筆で記入してください

学科教育実施記録表

氏名 学連 太郎		新橋 大学 2 年生		2023 年 ・ 第 360 期コース	
科目 (教育時間)	実施項目	日時	教育時間	学科教官 署名	
1. 運航に必要な知識 1-1 一般航空知識 (1時間)	1. 有視界飛行方式に関する諸規則の概要 2. 使用滑空場、周辺の地形及び障害物 3. 飛行場(滑空場)標識施設の特性と利用法の概要 4. 搜索救難に関する規則の概要 5. 航空法規、告示、その他運航に必要な事項	3/10 16:30~ 17:35	1.0	田中昇	
1-2 航空機事項 (1時間)	1. 性能、諸元、運用限界 2. 諸系統、諸装置、諸装備及び故障時の処置 3. 通常操作及び緊急操作の手順	3/10 17:35~ 18:35	1.0	田中昇	
2. 飛行前作業 2-1 証明書、書類 (0.5時間)	1. 航空機登録証明書、耐空証明書、運用限界等 指定書、航空日誌等必要な書類の有効性の確認 2. 飛行日誌等により航空機の整備状況の確認	3/10 18:40~ 19:10	0.5	田中昇	
2-2 重量、重心位置 (0.5時間)	1. 審査に使用する滑空機の重量・重心位置表の 使用要領	3/11 10:00~ 10:30	0.5	江口正	
2-3 航空情報 (1時間)	1. 必要な航空情報の入手、飛行に関連のある事 項を解説、航空図の知識 2. 航空交通管制方式の概要 3. 航空保安無線施設の特性と利用法の概要	3/11 10:35~ 11:35	1.0	江口正	
2-4 気象情報 (1時間)	1. 必要な気象情報入手、天気概況、滑空場、飛 行場及び使用空域の実況、予報 2. 滑空気象、上昇気流の予測	3/11 13:00~ 14:00	1.0	江口正	
2-5 滑空機の組立 飛行前点検 (1.5時間)	1. 滑空機の組立・分解要領、地上取り扱い要領 2. チェックリストの内容及び使用要領 3. 使用機の外部、内部点検要領 4. 離脱装置、曳航索及び曳航索安全装置の知識 5. バラスト他、積載物の安全性 6. 曳航者との打ち合わせ要領	3/11 14:10~ 15:10	1.5	江口正	
3. 操縦法及び 緊急処置 (1.5時間)	1. 場周飛行及び離着陸(横風及び背風着陸を含) 2. 曳航要領及び各種空中操作 3. 各種緊急操作要領(曳航不調、場外着陸他) 4. ソアリング要領 (サーマル、スロープ・リッジ、ウエーブ) 5. 計画力、判断力及び状況認識	3/12 16:30~ 18:00	1.5	田村花子	
4. 航空衛生 (1時間)	1. 航空医学一般 2. 応急処置・救急法 3. 人間の能力及び限界に関する事項	3/12 16:30~ 17:30	1.0	田村花子	
5. 試験 (1時間)	1. 口述による修了試験	3/15 17:00~ 18:00	1.0	田村花子	
教官所見		合計時間	10.0	時間	
2023 年 3 月 15 日、 主席教官又は審査立会教官 署名		田村 花子			
連盟事務局確認欄	管 理 者 日本学生航空連盟 専務理事				

学科教育修了試験成績表

氏名 学連 太郎		新橋 大学 2 年生		2023 年 第 360 期コース	
科 目	実 施 項 目			判 定	
1. 運航に必要な知識 1-1 一般航空知識	1. 有視界飛行方式に関する諸規則の概要			(良・否)	
	2. 使用滑空場、周辺の地形及び障害物			(良・否)	
	3. 飛行場標識施設の特性と利用法の概要			(良・否)	
	4. 捜索救難に関する規則の概要			(良・否)	
	5. 航空法規、告示、その他運航に必要な事項			(良・否)	
1-2 航空機事項	1. 性能、諸元、運用限界等			(良・否)	
	2. 諸系統、諸装置、諸装備及び故障時の処置			(良・否)	
	3. 通常操作及び緊急操作の手順			(良・否)	
2. 飛行前作業 2-1 証明書、書類	1. 航空機登録証明書、耐久証明書、運用限界等指定書、航空日誌等必要な書類の有効性の確認			(良・否)	
	2. 飛行日誌等により航空機の整備状況の確認			(良・否)	
2-2 重量、重心位置	1. 審査に使用する滑空機の重量・重心位置表の使用要領			(良・否)	
2-3 航空情報	1. 必要な航空情報の入手、飛行に関連のある事項を解説、航空図の知識			(良・否)	
	2. 航空交通管制方式の概要			(良・否)	
	3. 航空保安無線施設の特性と利用法の概要			(良・否)	
2-4 気象情報	1. 必要な気象情報入手、天気概況、滑空場、飛行場及び使用空域の実況、予報			(良・否)	
	2. 滑空気象、上昇気流の予測			(良・否)	
2-5 滑空機の組立 飛行前点検	1. 滑空機の組立・分解要領、地上取り扱い要領			(良・否)	
	2. チェックリストの内容及び使用要領			(良・否)	
	3. 使用機の外部、内部点検要領			(良・否)	
	4. 離脱装置、曳航索及び曳航索安全装置の知識			(良・否)	
	5. バラスト他、積載物の安全性			(良・否)	
	6. 曳航者との打ち合わせ要領			(良・否)	
3. 操縦法及び 緊急処置	1. 場周飛行及び着陸（横風及び背風着陸を含む）			(良・否)	
	2. 曳航要領及び各種空中操作			(良・否)	
	3. 各種緊急操作要領（曳航不調、場外着陸他）			(良・否)	
	4. ソアリング要領（サーマル、スロープ・リッジ、ウエーブ）			(良・否)	
	5. 計画力、判断力及び状況認識			(良・否)	
4. 航空衛生	1. 航空医学一般			(良・否)	
	2. 応急処置・救急法			(良・否)	
	3. 人間の能力及び限界に関する事項			(良・否)	
教 官 所 見	技能審査に必要な能力を有する		全科目判定	(合格・不合格)	
2023年 3月15 日、		担当教官 署名		田村 花子	
連盟事務局確認欄	管 理 者 日本学生航空連盟		専務理事		

実技教育実施記録表（ウインチ曳航）

氏名 学速太郎		新橋 大学 2 年生		実施場所 妻沼		2023 年 第 360 期コース	
科目 (計画回数)	実施項目			月/日	判定 良・否	飛行 時間	実技教官 署名
1. 空中操作 場周飛行 離着陸 (同乗8回) (気象条件に より課目の 組み合わせ は変更でき る) 選択式の科 目は、最低 1回以上実 施する)	1. 失速1・低速飛行・通常又は横風離着陸			3/16	良	6分	田中昇
	2. 失速1・最良滑空速度・通常又は横風離着陸			3/16	良	6分	田中昇
	3. 失速2・地上目標中心の旋回・通常又は横風離着陸			3/16	良	6分	田中昇
	4. 失速2・地上目標中心の旋回・通常又は横風離着陸			3/16	良	6分	田中昇
	5. 失速3・失速4・最小沈下速度・横滑りからの着陸			3/17	良	5分	江口正
	6. 失速3・失速4・ソアリング又は急旋回・ 通常又は背風着陸			3/17	否	6分	江口正
	7. 失速組合せ(2種類)・ソアリング又は急旋回 通常又は背風着陸			3/18	良	5分	田村花子
	8. 空中操作科目組合せ・ 通常又は背風着陸			3/18	良	6分	田村花子
	6.失速3、4急旋回・通常着陸			3/17	良	6分	田村花子
2. 緊急操作 (同乗2回)	1. 曳航不調又は索切れ処置			3/19	良	3分	田村花子
	2. 場外着陸要領			3/19	良	6分	田村花子

単独飛行訓練実施の技量を確認しました。日付 年 月 日 担当教官

3. 総合演習 単独訓練 技能査定 (単独2回) (同乗1回)	1. 単独訓練、科目組合せ、指定地着陸			3/19	良	6分	田村花子
	2. 単独訓練、科目組合せ、指定地着陸			3/19	良	6分	田村花子
	3. 技能査定、審査要領、指定地着陸			3/20	良	6分	田村花子
計	同乗飛行 12 回、1 時間 7 分			単独飛行 2 回、0 時間 12 分			
教官所見	技能審査に必要な能力を有する						
2023 年 3 月 20 日、主席実技教官又は審査立会教官 署名 田村 花子							
(補備教育)	技能審査			3/27	良	6分	田村花子
技能審査	2回、0 時間 13 分			養成課程合計		17 回、1 時間 38 分	
2023 年 3 月 28 日、主席実技教官又は審査立会教官 署名 田村 花子							
連盟事務局確認欄	管 理 者 日本学生航空連盟 専務理事						

注：失速は旋回中ダイブ閉、直線中ダイブ開のそれぞれ初期失速、完全失速の4種類を行う。

失速科目の組み合わせ

1. 失速 1 進入形態—旋回中—ダイブ閉—初期失速と回復操作
2. 失速 2 進入形態—旋回中—ダイブ閉—完全失速と回復操作
3. 失速 3 着陸形態—直線中—ダイブ開—初期失速と回復操作
4. 失速 4 着陸形態—直線中—ダイブ開—完全失速と回復操作

実技教育の実施手順及び実技教官引継表の記入要領

1. 科目回数の右の欄に日付を記入 例 10/1
2. 各飛行の各科目は、原則的に「・」で表記している科目を実施し評価する。
3. 各飛行時に指定された科目実施後、高度に余裕がある場合は次回以降に実施予定もしくは気象条件等により未実施であった科目の1科目（失速1から4、低速飛行、最良滑空速度による滑空、最小沈下速度による滑空、地上目標を中心とした旋回及びソアリング又は急旋回の内の1科目）のみ実施して、評価することが出来る。
4. 3.の飛行で事前に実施し評価された科目も、「・」で表記している科目は再度実施し評価する。
5. 各科目は、「A」、「B」、「C」、「D」で評価し記入する。
6. 科目の評価： A=良（安定している）、 B=良(判定基準内)
C=否（判定基準外）、 D=否（理解不足）
7. 各飛行の判定は、「良」または「否」で記入する。
8. 各飛行において、全ての科目の評価が「A」又は「B」の時、飛行の判定を「良」とする。
9. 高度等の関係で一部の科目が未実施の場合は、実施した科目の評価が「A」又は「B」以上の時、未実施の科目の評価は未記入とし、特に高度判断、離着陸に問題がなければ飛行の判定を「良」とし、以降の飛行で実施し評価を記入する。
10. 各飛行において一部の科目の評価が「C」又は「D」の場合、講評欄の引き継ぎ事項に状況を記入し、飛行の判定を「否」とする。
11. 高度判断の不良により通常の場合周飛行が実施できない時は、全ての科目の評価は未記入とし、飛行の判定を「否」とする。
12. 飛行の判定が「否」の場合は、追加教育を実施する。
13. 1. 空中操作、2. 緊急操作の追加教育を実施する場合は、3. 総合演習の前までに実施する。
14. 科目の評価が「C」又は「D」が下された飛行の追加教育は（10.の場合）、その科目を実施し評価する。評価が「A」又は「B」以上の時、飛行の判定を「良」とする。
15. 高度判断の不良により通常の場合周飛行が実施できない飛行での判定が「否」の追加教育は（11.の場合）、その飛行で実施予定の全ての科目を実施する。
16. 追加教育は、ウインチ曳航による教育に於いては3回、航空機曳航による教育に於いては2回を限度とする。
17. 追加教育を実施した飛行の講評欄には、「追加教育」である旨を記入する。
18. 3. 総合演習の直前に実施した飛行で、実技教育実施記録表（様式9-2及び9-3）及び実技教育引継表（様式9-6）の講評欄に「単独飛行の技量を確認」した旨を記入する。
19. 3. 総合演習の1.単独訓練までに、1. 空中操作、場周飛行、離着陸、2. 緊急操作の各科目について、評価が「A」又は「B」以上の実施回数が必要回数を満たしていることを確認する。（実施回数が必要回数を超えても良い）
20. 3. 総合演習の1.単独訓練までに、1. 空中操作、場周飛行、離着陸、2. 緊急操作の各科目について、評価が「A」又は「B」以上の実施回数が必要回数を満たしていない場合は、補習を実施する。
21. 補習を実施した飛行の評価欄には、「補習」である旨を記入する。
22. 3. 総合演習 3.技量査定を担当した教官は、各科目ごとの実施回数の合計を記入し、必要回数が実施されたかを確認する。

技能審査成績報告書

(滑空機)

総合判定

合格

① 受審者調書 (受審者記入欄)			
ふりがな <u>がくれん たろう</u>		生年月日	
氏名 学連 太郎		2001 年 4 月 1 日生	
受審する資格	審査の種類	既得の技能証明	
自家用操縦士	技能証明	_____No_____	
審査に使用する滑空機			操縦練習許可書番号
等級	型式	国籍・登録記号	No. <u>東事総第100号</u>
上級滑空機	アレキサンダー式 ASK21 型 シュライハー	JA 2520	有効期限 2023 年 6 月 1 日
現住所	郵便番号 <u>105-0004</u> <u>東京都港区新橋1-18-2</u>		電話番号 <u>090-7004-5099</u>
大学名	新橋大学		電話番号 <u>03-6206-1235</u>
学科試験合格	2022 年 8 月 10 日		受験地 東京
飛行経歴 (技能審査を受ける前までの経歴を記入)			
上級滑空機	総飛行時間および回数	28 時間 08 分 157 回	
受審する滑空機と同型式の滑空機の飛行時間、回数		19 時間 26 分 115 回	
上級滑空機による単独飛行時間および回数		8 時間 54 分 33 回	
② 教官の証明 (指定養成教官記入欄)			
受審者 <u>学連太郎</u> は指定養成施設の所定の教育を修了し、技能審査に係る飛行経歴および所定の技能を有していることを証明します。			
教官の有する技能証明の資格と番号 <u>自家用</u> 操縦士 No. <u>3002</u>			
操縦教育証明 No. <u>217</u>			
2023 年 3 月 20 日			
教官署名 <u>田村 花子</u>			
③ 審査の実施 (審査員記入欄)			
口述審査	期日	年 月 日	場所 審査員
実技審査	期日	年 月 日	
(特記事項)			
④ 教育課程の修了 (日本学生航空連盟確認欄)			
担当者	責任者	管理者	

項目	内容・要領	/	/	/	/	/	/	/
A. 機材	使用機体							
滑空機	チェックリスト、航空日誌、耐空検査							
ウインチ	" 整備日誌、6月点検							
曳航索	エンドセット、消耗、総使用回数、他							
索引車	チェックリスト、運航日誌、整備状況							
無線機	バッテリー、送受信状態、日誌、免許							
救急用具	チェックリスト、内容							
その他機材	"							
B. 訓練生	参加人数							
健康状態	病気、精神、睡眠、薬品の服用							
服装	帽子、作業服、靴							
練習許可書	期限、身体検査証、技能証明書							
法60条・92条・91条	申請者名簿							
単独飛行予定者	単独飛行要件確認							
経歴・知識	必要な教育							
人員配置	所定の部所、監視人、班、係							
ピストの構成	発航管理、記録、指導員							
C. 情報								
飛行空域	航空情報、管制機関との電話連絡							
滑空場・周辺	障害物、路面状況、使用規則							
場外着陸場	長さ、幅、路面、傾斜、障害物							
気象情報	現況、予報、天気図、気象台							
引き継ぎ事項	前日からの申し送り、ヒヤ・ハットレポート							
訓練計画	内容、適否							
諸規則	法規、スポーツ手帳、各基準							
D. テストフライト								
機体全体	失速速度・特性、安定、異常音							
操縦装置	各舵の作動状況、効き							
計器類	各計器の指示、他							
無線通信	送受信テスト							
曳航状態	加速、速度、離脱、他							
気象	気流、視程、雲高、他							
確認者	指導員署名欄							

年 月 日

コース前担当教官確認表

公益財団法人日本学生航空連盟
 (指定航空従事者養成施設 管理者)
 _____ 殿

責任者 _____

担当教官のコース前確認を実施しましたので報告します。

教育施設名: _____		期 別: _____年 第 _____ 期			
学科教官名	教育規程	諸規則の改定	その他 (引継事項等)	確認日	担当者

実技教官名	教育規程	諸規則の改定	その他 (引継事項等)	確認日	担当者

教育施設、訓練機材等点検報告書

公益財団法人 日本学生航空連盟
 (指定航空従事者養成施設 管理者)
 殿

責任者 _____
 養成コース: 期別 _____ 年 _____ 期

様 指定養成施設の点検を実施し、担当者へ送付願います。

教育施設 (訓練所): 妻沼訓練所 訓練滑空場: 妻沼滑空場

点 検 項 目		判定	処置	確認者
施 設	教 室	白板、机、椅子は1つの期に在籍する訓練生に十分な数量のこと		
	滑空場	訓練に使用する滑空場が適切に保安全管理されていること		
教 材	教科書 参考書	航空法規集		
		耐空性審査要領		
		AIP		
		AIM—JAPAN		
		航空図		
		グライダースポーツ手帳		
		新しい航空気象		
		滑翔技術		
		グライダー操縦の基礎		
		風を聴け		
	訓練使用機の飛行規程の写し			
	参考資料	航空機の基本技術		
		空中航法		
		飛行とからだ		
		航空工学教室		
教 材	操縦教育教本			
	滑空機・曳航機の模型			
	各種図表			
機 材	機 体	ビデオ		
		JAxxxx (耐空証明期限: 令和 xx 年 xx 月 xx 日)		
	ウインチ			
曳航機	JAxxxx (耐空証明期限: 令和 xx 年 xx 月 xx 日)			
検査実施者 (訓練所長)	年 月 日	教育規程 11 (3) による点検を実施しました 氏名		
担当者	年 月 日	氏名		

訓練所長 → 担当者 → 責任者 → 管理者 (保管)

年 月 日

技能審査結果の評価に関する報告書

公益財団法人日本学生航空連盟
 (指定航空従事者養成施設 管理者)
 _____ 殿

責任者 _____

技能審査の結果についての評価に関する報告をします。

期別： 年 第 _____ 期	開催場所： _____	
技能審査員名	立ち会い教官名	担当者名
評価、検討項目		
教育内容	教育方法	シラバス
教育内容・教育の方法・シラバスについての改善、見直しについて		

